区報ぶんきょう オリンピック・パラリンピック こども新聞 平成30年1月14日

【ゴールボール】視覚以外の五感をつかう

高田朋枝（たかだともえ）選手

鈴が入った重いボール

ゴールボールは視覚障害（しかくしょうがい）のある人を対象（たいしょう）に考案（こうあん）された球技（きゅうぎ）で、アイシェードという専用（せんよう）の目隠し（めかくし）をして鈴がはいった1・25kgの重いボールを投げてゴールに入れ点数を競（きそ）うスポーツです。

この競技では目が見えなくてもコートの線が分かるようにひもをコートにはりつけています。相手チームの足音を聞いたり、手でもをさわって自分の位置（いち）を確認したりと常に視覚以外の五感（ごかん）をはたらかせていなければいけません。日本の女子チームは4大会連続でパラリンピックに出場するなどとても活やくしています。

（中2／Y・I記者）

高田選手におしえてもらいました

ゴールボールって？

ゴールボールとは目の障害をもった人のボールをつかったスポーツです。

①コートに糸がはってあり場所をかくにんする。

②中にすずが入ったボールをあいてのゴールめがけて転がす。

あいてはボールがゴールに入らないように止める！

このようなかんじです。ぜひやってみてください。（小4／H・K記者）

ボールの音に耳をすます

投げるポイントと守るポイント

投げるポイントは、人と人の間に投げることです。手先や足先をねらい、いろんなボールをなげます。守るポイントは、全身をつかうことです。

国内大会は、だれでもでれます。国際大会やパラリンピックはしょうがいのひとだけです。

（小4／W・U記者）

ラインにふれて位置をかくにん

【ブラインドサッカー】ボールに向かうときは「ボイ！」

ブラインドサッカーを知っていますか？

9月30日、小石川運動場でブラインドサッカーを見学しました。ブラインドサッカーは5人対5人でやる目が見えない人のためのサッカーです。

その中で、ゴールキーパーは目が見える人ができ、それ以外の4人（攻めと守る人）は、アイマスクをして見えないじょうたいでやります。ボールの中にすずがあり、「シャカシャカ」となります。そして、ボールをねらっている人が「ボイ！」といいます。ちなみに「ボイ！」とはスペイン語で「行くぞ！」という意味です。そして、話をきいたもと選手の渡邊秀樹（わたなべひでき）さんは、「パラリンピックまでに、ブラインドサッカーをいろいろな人に知ってほしい。」と言っておりました。

（小4／S・K記者）

吉備津蒼太（きびつそうた）選手（左から2番目）と園部優月（そのべゆづき）選手（左から3番目）

選手に聞いてみた！

私は、free bird mejirodai（フリーバードめじろだい）という文京区のチームの中学2年生、園部（そのべ）選手と吉備津（きびつ）選手にお話をうかがいました。最初はこわいという想いもあったが、今はなれたということです。ブラインドサッカーのおもしろいところは、みんなで声をかけ合いながら、さくせんを考えてプレーをする所や今までれんしゅうしたせいかをはっきできる所とはなしていました。

アイマスクをつけて体験

ころがると音がするボール

はじめたきっかけは、園部選手は小学生の時に試合を見に行ってチケットを買うときにブラインドサッカーができないか聞いたことだと言っていました。吉備津選手は、小学校6年生の時にロービジョンフットサルをやっていて、中学生になって友達にさそわれて始めたそうです。二人の選手は東京2020パラリンピック大会に向けて試合に出られるようがんばりたいと言っていました。

（小5／A・T記者）

文京区・ドイツ　ホストタウン情報

12月3日に森鷗外（もりおうがい）記念館に森鷗外のことと、ドイツの遊びについて学びに行きました。森鷗外の人生のやったことの多さに驚きました。今後もドイツと交流していけたら良いと思います。（小5／C・Y記者）

森鷗外と文人

1862年に生まれた森鷗外（本名：森林太郎（もりりんたろう））は小説家や軍医（ぐんい）など、たくさんの功績（こうせき）をのこしています。「めさまし草」などは有名です。鷗外はたくさんの文人といっしょに本もつくっていき、1922年60歳で病死しました。

（小4／S・K記者）

ドイツの遊び

ザーガランド

ザーガランドは、おとぎ話の宝物を探すボードゲームです。1982年にドイツ年間ゲーム大賞を受賞したとても面白いゲームです。このゲームのむずかしいところは、2つのサイコロをふった後、出た目をどのように使うか考え、宝物がかくされている木のそばに進めるようにしないと勝てないことです。

（小4／R・S記者）

このゲームは森の中でそれぞれのお話のグッズをさがし、お城までもっていくゲームです。私たちもドイツ人のように、よく考え、頭をつかうゲームをふやしたらいいと思います。

（小4／Y・T記者）

イライラしないで

「イライラしないで」はすごろくのようなゲームで、ゲームをした方は、「楽しかった」「協力プレーもあった」など楽しんでいる様子がわかりました。わたしは「このボードゲームを家のみんなでやりたい！」と思いました。

（小4／H・K記者）

「イライラしないで」はドイツでは知らない人はいないといわれるゲームです。はじめはサイコロをふって6が出ないと1コマでられないので、そこでいらいらしてしまいます。ドイツの伝統的なゲームだそうです。（小4／K・A記者）

マレフィッツ

ルールは、4つのコマを移動させ、先にほかの人よりゴールすると勝ちです。一人ずつ進ませていこうか、それとも4つのコマをいっきにすすもうか迷いました。ゲームをした方にインタビューをしてみると、「知らなかったゲームだけれど楽しかったと言っていました。ドイツの遊びを知ってもらい、楽しんでほしいと思います。（小4／C・K記者）

リグレット

リグレットというのは、速さ、動きを求めるゲームです。同じ色、同じ数字のカードで1～10の数字にしていくカードです。スピードが大切なので、頭を使います。（小4／R・M記者）

リグレットはルールが面白く、マイナスとプラスの合計点できそいあいます。勝つためには、自分のカードと場のカードの両方を見ます。カードを持って止まっている時間がもったいないので、常にカードの山札を動かし続けることが大切です。（小6／K・A記者）

ドイツの遊びQ&A

質問①いつの時期に遊びますか？

回答①冬です。夏は外で遊びたくなります。

質問②どのような人と遊びますか？

回答②家族や友達です。例えば、クリスマスでボードゲームをもらったら、そのまま友達と遊んだりします。（小4／M・O記者）

質問③どうしてボードゲームは時間がかかるのですか？

回答③ボードゲームを作った人が、知恵をしぼるために作ったからです。

質問④ドイツの子どもは、何歳からあそんでいるのですか？

回答④ゲームによって対象年齢（たいしょうねんれい）はことなるが、だいたい6歳くらいからやっています。（小4／K・S記者）

ドイツ（日独協会）の方に質問しました

印刷物番号D0517006